

年祭をはじめ各種イベントを活用してモデル運行を実施し、運行実現に向けた機運を盛り上げます。

また、運行実現には、いくつかの課題があります。運行システムの構築はもちろん、運営資金の確保、関係法令の改正、交通安全対策、商店街をはじめとする地域の理解など今後、検討していく必要があります。

このため、行政、観光団体、商店街、運輸業者、市民団体などが連携し、まちづくり、地域活性化の新たな取り組みとして、それぞれが課題解決に向け、NPOをサポートしていきます。

## 7 河川・道路管理におけるゼロエミッション計画 「竹等のチップ化」実験事業〈管理調整課〉

（概要）

湖東地域振興局管内の河川では、県内でも有数の規模を持つ河畔林が人家に隣接して形成されています。

この河畔林は、地域住民からは洪水被害を防ぐためこれらの竹木伐採の要望がありますが、一方では

適正な管理を行うことにより、洪水の流れを緩和し堤防を保護する効果が期待できます。

（現状と課題）

これらの河畔林管理の現状は、委託による伐採、一般廃棄物としての有償処分をされており、莫大な費用負担とともに焼却に伴うCO<sub>2</sub>発生による環境負荷の増大が問題となっています。

（目標）

地域住民やNPO団体・ボランティアの方々との協働による適正な河畔林管理の仕組み作りをします。

また、伐採した竹木等をチップ化し、マルチング材として道路植樹帯や法面、河川堤防などへの防草対策として活用する実証を行い、環境負荷の低減、ゼロエミッション地域モデルの構築をします。

（今後の展開）

NPO等の研究団体との協働による検討委員会開催やチップ材のマルチング効果の調査研究を実施します。

また河畔林等について、地域ボランティアとの協働による管理モデルづくりを検討します。

## 第6節 湖北地域 ～「水のある風景」と「田園風景」を守る環境づくり～

〈湖北地域振興局〉

### 地域の概況、課題、環境づくりの方向

湖北地域は、伊吹山地や野坂山地などの山々と琵琶湖北湖に囲まれ、その70%が森林で占められ、その中を琵琶湖と淀川の源流である姉川をはじめとした河川が流れています。この地域は、県内最高峰の伊吹山頂に広がる高山植物群や深山に生息するイヌワシ、主に湧水地域に生息する魚類ハリヨといった貴重な生き物をはじめ、遠浅の湖岸に広がるヨシ原やそこに集まる水鳥など、多くの生物が生活する豊かな自然環境に恵まれています。

地域を流れる河川は、深山の広葉樹林に支えられる一方で、湖北の地域用水を支えるとともに、伏流水となって上流域から下流域にかけて、各所に湧水をもたらし、居醒の清水や泉神社湧水（米原市）、御前水（長浜市）など生活の中に根ざした豊かな水文化や森林文化を育んできました。

このような湖北ならではの自然風景・湖北らしい

環境を残していくため、様々な地域活動団体が、湖北の自然環境や里山の保全活動などに地道にかつ活発に取り組みられています。

また、平成18年(2006年)10月21日には、琵琶湖環状線が開業し、湖北の豊かな自然風景や文化遺産を求めて多くの観光客が訪れることが想定されます。

このため、今後とも自然環境の保全や歴史遺産の継承とともに、それらを広く語り伝えていく取り組みを地域の活動団体と協働しながら推進し、湖北地域にふさわしい施策を積極的に展開していきます。

### 取組

#### 1 身近な水環境づくり

琵琶湖の源流・湖北の河川や生活と深くつながった湧水地を保全し、子ども達が川遊びをする水辺を取り戻すため、次の事業を実施しました。

### (1) 流域アジェンダ実践促進事業〈環境課〉

#### (概要)

湖北地域には、姉川をはじめとして大小さまざまな河川が琵琶湖に流入していますが、それぞれの河川の流域には、その河川ごとに特色ある自然環境が見られるとともに、流域で営まれてきた人々の生活にもいろいろな風習などが見られます。

このような河川流域を単位とした水環境保全の取り組みを推進するため、平成14年(2002年)8月に地域住民主体の流域ワークショップ「姉川流域環境づくりフォーラム」を設置し、マザーレイク21計画に基づいた水環境保全の取り組みを展開しています。

#### (目標)

姉川流域環境づくりフォーラムで策定された環境取組指針(実践行動計画)に沿って、主要な河川の流域における自然環境や水環境(風土や歴史を含む)について、地域住民自らが再認識し、流域ごとの特性に根ざした身近な取り組みを実践していただくことを目標にしています。

#### (結果)

天野川流域で「歴史と水の探訪ウォーク」を開催した(参加者25名)ほか、地域活動や総合学習の場などで自然観察の指導者として活動される方などのスキルアップを図る講座として、水鳥についての「観察ガイド養成講座」を開催しました(参加者23名)。

また、「姉川フォーラム通信」や「天野川の歴史と水マップ」を発行し、地域の環境情報を提供することにより、地域住民らが主体となった環境保全活動の活性化を働きかけるとともに、小学生の環境学習向けの冊子として「誰でもできる環境調査ハンドブック」を作成し、将来を担う世代への環境教育を推進しました。

#### (結果の評価)

姉川流域環境づくりフォーラムとの協働を軸に、環境保全に向けた取り組みを、より広範な地域へと広めることができました。特に、平成15年度から取り組みを始めた探訪ウォークでは、姉川、高時川、天野川へと展開する中で、各流域の環境資源とその保全に向けた意識の掘り起こしを図ることができ、流域内外の活動団体や参加者との交流を深めることができました。

#### (今後の展開)

これらの取り組みを継続して実施し、さらに活動を充実したものとするため、姉川流域環境づくりフォーラムを始めとした活動団体との連携を強化し、湖北地域での流域アジェンダの一層の広がりを図っていきます。

### (2) 早崎内湖周辺ビオトープネットワーク検討調査事業〈環境課・田園振興課〉

第1編第1章第2節6を参照してください。

## 2 地域資源の有効活用と循環型社会づくり

有機質資源の農地還元システムや里山の利用と保全をはじめとする地域循環型の社会づくりを進めるため、次の事業を実施しました。

### (1) 木材資源の積極的な活用〈森林整備課〉

#### (概要)

湖北地域の森林は、戦後に植栽された伐期間近の35年生~45年生のスギ林が多くを占めています。しかし、間伐された材(間伐材)が利用されないため、間伐材が林内に放置されたままであったり、森林整備が不十分な場所も少なくありません。

この間伐材を含めた地域材を積極的に利用することによって、地域の活性化はもとより、適正な森林管理による公益的機能の増進や二酸化炭素の削減に寄与します。

#### (目標)

地域材の利用を促進するための普及啓発を行うとともに、地域材を利用するシステムを構築するための地産地消のネットワークづくりに向けて、森林所有者へのアンケートに基づく資源データ作成を目標としました。

#### (結果)

森林所有者への意識調査を実施し、その結果、主伐には抵抗があるが収入間伐については抵抗感が少ないことがわかりました。また、地域の製材業や設計士、工務店、森林組合におけるネットワークの準備会として「湖北の木で家をつくる会」が立ち上がりました。

#### (結果の評価)

消費者に向けての普及啓発や地域材を利用するためのネットワークづくりを行う第一歩を踏み出し、

今後の地産地消に向けての流れをつくるきっかけとなりました。

(今後の展開)

間伐材を低価格で搬出することが、地産地消の実施に大きく関わることから、高性能林業機械導入の実証実験を行うとともに、地域材を積極的に利用するための木材供給体制の整備や生産情報と需要情報を結びつけるシステムの構築を図ります。また、消費者に対しては、引き続き、地域材の良さや地域の森林保全に対する普及啓発を実施していきます。

## (2) 農村下水道汚泥の堆肥化利用システムの推進

〈田園振興課〉

(概要)

今まで焼却処分されていた農村下水道施設の汚泥と家庭の生ごみなどの有機質資源を堆肥化し、化学肥料の多用により活力(地力)が低下している農地に還元するシステムを推進しています。

(目標)

平成19年度からコンポスト施設を稼働させることを目標としています。

(結果)

平成16年度にコンポスト施設の建設に着手し、平成17年度は建設中です。

(結果の評価)

現在、順調にコンポスト施設の建設が進められており、平成18年度には完成予定です。

(今後の展開)

米原市(旧伊吹町地域)から発生する有機質資源を堆肥化し、地域内で利用するシステムを構築していきます。

## 3 地域に根ざした水文化・里山文化の見直し

自然と環境に根ざした水文化・里山文化を反映した環境学習を地域とともに進めるため、次の事業を実施しました。

### (1) 湖北エコミュージアム創造事業

〈地域振興課〉

(概要)

湖北地域では、豊かな自然や歴史遺産、伝統的な生活様式、地場産業といった地域資源をより良い状

態に保全し、住民自らが調査研究し、かつ学習していく活動を通じて、地域住民が地域に愛着と誇りを感じ、生き生きと暮らせる湖北地域を創造するための湖北エコミュージアム構想を推進しており、その「マスタープラン」を平成14年度から15年度にかけて策定しております。

これに基づき、平成15年度から、各地域で自然環境や歴史遺産などを守る活動をしている地域団体(サテライト)相互の交流を促進するためのサテライト交流会や湖北の語り部として活躍できる地域学芸員を養成するための講座の開催、さらには、地域の自然や歴史・文化にふれ、かつ地域学芸員が現地で活躍できるエコツアーを実施しています。

(目標)

平成18年度末には、150人の地域学芸員を養成することとしています。平成17年度は、30名の地域学芸員を養成することを目標としました。

(結果)

長浜市早崎町で「サテライト交流会」を開催しました。また、地域学芸員の養成講座は、従来から実施していた短期集中型を改め、より多くのことを学んでもらうという考え方のもとに、7ヶ月間のカリキュラムを設け、自然環境保全やエコツーリズム等を内容とした基本講座、選択講座、実践講座を開催しました。この結果、平成17年度には、地域学芸員の新規養成者数は28名となり、総勢122名となりました。

(結果の評価)

「サテライト交流会」では、内湖再生などに取り組む早崎ビオトープネットワークの活動を広く紹介できました。また、地域学芸員の養成では、それぞれの受講修了条件を高く設定したこともあり、申込者48名のうち、実際に修了した方は28名にとどまりました。

(今後の展開)

「湖北エコミュージアム推進協議会」の事業をより充実させ、延べ150人の地域学芸員を養成できるよう努めています。

## (2) 山をフィールドにした森林環境学習

〈森林整備課〉

(概要)

「琵琶湖森林づくり条例」、「琵琶湖森林づくり基本計画」に基づき、子どもから大人までを対象にした各種の出前講座や森林環境学習を通じて、森林の多面的機能や適正な管理についての普及啓発、次の世代を担う人材の育成を推進しています。

(目標)

小中学生を対象にした「おうみ森っこスクール」、一般の林業後継者を対象にした「滋賀森づくり塾」などの参加者数300人以上を目標としました。

(結果)

「おうみ森っこスクール」(15回)や「滋賀森づくり塾」(3回)などの参加者数は延べ459人となり、目標を達成することができました。

(結果の評価)

子どもたちの他に先生にも研修を実施し、幅広い普及活動が実施できました。また、湖北の森林を考えるイベントとして、「森林づくりフォーラム in 湖北」の開催を後援(参加者77名)したほか、西浅井町の教育委員会と連携して、小中学生を対象にした森林環境学習も実施することができました。

(今後の展開)

「おうみ森っこスクール」を中心に、森林センターと連携を図りながら森林環境学習を進め、森林保全の大切さを若い世代に引き継ぐとともに、資質の向上を図っていきます。

## (3) 魚のゆりかご水田推進事業〈田園振興課〉

(概要)

ほ場整備が進んだ湖岸沿いの水田では、琵琶湖と水田の生き物の往来が遠のき、水田での魚類の産卵・ふ化の場としての機能が低下してきました。これらの水田を対象に、ニゴロブナを放流し、産卵・ふ化・育成をモデル的に行い、湖辺域における豊かな生態系の回復を図っています。

(目標)

この取り組みを展開し、環境意識の向上とニゴロブナの増殖を図ることを目標としています。

(結果)

平成17年度は、50筆の水田で事業を実施し、各筆

で多数のニゴロブナの産卵、ふ化、成長を確認しました。また、ニゴロブナを排水路や琵琶湖に放流し、水田の持つ多面的機能や琵琶湖固有のニゴロブナの生態などを学ぶ場として、小学生や地域住民等を対象とした体験学習会(7回)を開催しました。

(結果の評価)

ニゴロブナの産卵、ふ化、成長をとおして水田の持つ生態系保全機能を確認することができました。また、体験学習により地域住民の環境保全意識の高揚につながりました。

(今後の展開)

農業者の事業に対する意識も高まり、今後は農業者独自の取り組みとする一方、遡上型施設(魚道)の普及を図り、湖辺地域の活性化につなげていきます。

## (4) 田園風景の保全と整備の推進〈田園振興課〉

(概要)

湖北地域においては、豊かな水や土などの自然環境とともに農村の地域資源と歴史・伝統文化の発達により田園空間を形成してきました。これは、農業用水の開発に関わる歴史でもあり、その中から湖北特有の農村文化が保全・継承されてきました。これらの地域資源を地域の貴重な財産として正しく評価し、将来にわたって整備・保全するため、田園空間整備事業をはじめとした多くの事業を実施しています。

(目標)

地域住民をはじめ、地域の各団体に田園空間博物館構想について一層の理解を深めていただくことを目標としました。

(結果)

博物館総合案内所(高月駅前)の整備に着手したほか、地域住民との協働によるアジサイの植栽に取り組みました。

(結果の評価)

地域住民による地道な取り組みを通じて田園空間の持つ良さを再発見する機会となりました。

(今後の展開)

地域資源を巡る散策ルートや博物館総合案内所を活用して、地域の各団体が主体となって田園空間博物館を管理・運営する組織を設立します。

## 4 環境づくりを進める体制

地域における環境保全活動の取り組みの輪を広げ、地域に根ざした活動へと定着させるため、次の事業を実施しました。

### (1) 環境活動ネットワークの構築〈環境課〉

(概要)

「姉川流域環境づくりフォーラム」のホームページを開設し、フォーラムやメンバーの取り組みを広くPRしています。

また、湖北地域で活動する環境団体の相互の連携強化を図るため、インターネットを利用したネットワーク化を進めています。

(目標)

姉川流域環境づくりフォーラムで策定された環境取組指針（実践行動計画）の普及や地域全域への環境活動の輪の拡大、さらには、各環境活動団体の情報発信の場を確保することを目標にしています。

(結果)

「姉川流域環境づくりフォーラム」のホームページにより、フォーラムの活動状況を情報発信するとともに情報交換の場としての活用を図ってきました。

(結果の評価)

ホームページを適正に管理・運用することにより、環境活動の輪の拡大へ向けた情報発信と情報交換の場としての機能を果たすことができました。

(今後の展開)

今後は、このホームページを活用することにより、各種環境団体や地域住民、NPOの方々が、それぞれの活動内容のPRや情報交換を積極的に行い、各種環境団体などが他の活動団体や地域住民と交流の輪を拡げ、それぞれが協働できる事業を開拓するなどして、活動内容の充実に関わりつづけられるよう、引き続きホームページの内容充実に努めます。

### (2) 天野川流域河川環境リーダー養成事業

〈長浜建設管理部管理調整課〉

(概要)

天野川流域はゲンジボタルの生息地として知られ、上流部の米原市長岡などで毎年、ホタル祭りが開催されています。また、天野川は、豊富な湧き水のある地蔵川や枝折川を支川に有し、バイカモやハリヨの生息

が見られるなど清澄な水が豊かに流れています。

こうした豊かな自然環境を守っていくには、地域住民との協働による「川の管理」や「川づくり」が重要であることから、引き続き、住民の川に対する関心を高めるとともに「天野川流域河川環境リーダー養成事業」を展開して、地域住民による活動の定着に結びつけていきます。

(目標)

天野川流域の自然環境について、川の生い立ちに遡って学ぶ機会を設け、川を見るだけではなく一歩川に踏み込むことで、川に対する知見を養うような人づくりに取り組むことを目標としました。

(結果)

地域リーダーを養成する組織として、(仮称)「あまのがわ塾」の設置を目指し、天野川の環境に関心を持っておられる方々を中心に「ふるさと発見!あまのがわ講座」を開催するなどして準備委員会を立ち上げることができました。

(結果の評価)

(仮称)「あまのがわ講座」を開催することによって、天野川の環境保全に関心がある方々を発掘することが出来ました。

(今後の展開)

平成17年度に設置した準備委員会を中心に、米原市等の住民で、天野川に継続して関心を持って頂ける人材を見出し(仮称)「あまのがわ塾」を設立して塾を開講し、「天野川流域河川環境リーダー」の養成に向けての取り組みを進めています。

### (3) 姉川・高時川の高水敷保全事業

〈管理調整課・河川砂防課〉

(概要)

河川の高水敷に自生する立木群は洪水時に支障となります。しかしながら、その伐採方法や伐採後の管理にあたっては地域との協働が不可欠であるとともに、河畔林としての環境も考慮する必要があります。

このため、立木群の伐採方法や範囲、さらには管理方法等について具体的な方策を策定するため、平成18年度には、既存資料等による現状把握(現地調査)等の学習会を実施し、課題の抽出・整理を行うとともに学識経験者や地域住民等による協議会を設立しました。

## 第7節 湖西地域 ～見直そう自然の恵みー湖西からの発信～

〈高島県事務所〉

### 地域の概況、課題、環境づくりの方向

湖西地域は、滋賀県の北西部に位置し、琵琶湖と山が近接し、比較的狭い地域に集落が点在するという日本の原風景とも言える多様多様な景観を形成しています。そのような環境の中で多様な動植物と人々の生活が深く関わる生態系を作り出していることから、湖西地域は「森と里と湖」が繋がった一つのまとまりのある小宇宙であると言えます。その恵まれた自然環境から、農林水産業や観光等の産業面をはじめ、日々の暮らしにおいても有形無形に恩恵を受けています。

しかし近年の社会・経済情勢の急激な変化に伴い、琵琶湖や河川環境の悪化、里山の荒廃等、様々なことが問題になってきています。

湖西地域では、「見直そう自然の恵みー湖西からの発信」を合い言葉とし、恵まれた水環境を軸に、里山や河川、内湖など人々の暮らしに密着してきた自然環境の価値を再発見して保全や再生を進めるとともに、環境に対する負荷の少ない資源循環型の生活を実践し、自然と人が共生・共存できる地域づくりを行うため、以下の項目について取り組みました。

### 取組

#### 環境づくりを進める体制づくり

##### 1 「湖西・森と里と湖のミュージアム」構想推進事業

〈総務出納課〉

(概要)

湖西地域の自然や歴史、風土、生活などを、癒し  
の場・体験交流の場・環境学習の場として位置づけ  
ながら、バランスの取れた地域環境の保全を図り、  
地域の活性化に向けた新しい仕組みを地域ぐるみで  
考える「湖西・森と里と湖のミュージアム」構想を  
平成14年10月に策定しました。

この構想に基づき、地域住民や関係団体との連携  
を図りながら「地域での盛り上がり・体制づくり」  
と「地域主体の具体的な取り組みの進展」を図って  
いきます。

#### ア 課題

- ①取組意欲を持った人、団体が育ち、地域での  
取り組みが進むこと。
- ②地域情報の情報発信システムが構築されるこ  
と。
- ③全体をコーディネートする推進体制が、住民  
主導のネットワークを核として組織されるこ  
と。

#### イ 取組の概要

##### ①キーパーソン会議の開催

地域での取組の核となる人々や構想策定段  
階から関わっているコーディネーターの参画  
を得ながら、ミュージアム構想の円滑な推進  
を図ります。

##### ②住民参画型情報発信システムの構築

- ・ミュージアムサポーターとの協働によるホー  
ムページの企画運営を行っています。
- ・地域の魅力発信のため情報紙「もりっこ通信」  
を年4回発行し、市内各戸配布しました。

##### ③湖西森・里・湖（もりっこ）交流会の開催

地域での取組事例や成果を共有し、様々な  
地域において取り組みを波及、促進するた  
めに必要な連携・協力の場づくりを行います。  
開催期日等：平成18年3月12日(日)

参加者177名 参集団体53団体

##### ④湖西地元学の推進

地域に住む人自らが地域のことを調べ、魅力  
や誇りとするところを探し学ぶことから始める地  
域育てを進めています。平成17年度は、マキノ  
町牧野地区、今津町三谷地区で実施しました。

##### ⑤国立公園等エコツーリズム推進モデル事業の 推進

「湖西・森と里と湖のミュージアム構想」  
に基づき、水の流れ、命の育みを体感する  
「流域里山塾」を基本コンセプトとして、ツ  
アー参加者が自然や地域文化の保全・継承へ  
向け、具体的な行動を起こす機会を提供して  
います。

(目標)

ア「地域での盛り上がり」づくりに向けて

「湖西・森と里と湖のミュージアム」ホームページアクセス件数

目標値 累積25,000件(対前年プラス10,000件)

イ「体制づくり」と「地域主体の具体的取り組みの進展」に向けて

「湖西森・里・湖交流会」への参加団体数

目標値 50団体(平成16年度実績45団体(目標35団体)×1.1)

(結果)

ア「湖西・森と里と湖のミュージアム」ホームページアクセス件数 25,023件 達成率100%

イ「湖西森・里・湖交流会」への参加団体数 53団体 達成率106%

(結果の評価)

ア「湖西・森と里と湖のミュージアム」ホームページアクセス件数については、ミュージアムサポーターによる適時の更新や地域の人々に親しみやすいホームページづくりに努力した結果、目標を達成することができました。

イ「湖西森・里・湖交流会」への参加団体数増に向けては、各団体からの独自の呼びかけも行った結果53団体の参加があり、着実な交流の場の創出が確認できました。

(今後の展開)

地域において住民等による主体的な取り組みが芽生えつつあり、地域への定着と発展のため、具体的に目に見える形での事業展開を進めながら、地域住民の方々のさらなる共感の輪と連携が進むように努めます。

また、地域内外に分かりやすい形での情報発信を一層充実させていくことも課題であり、効果的なPRに努めていきます。

こうした取組を継続することで、地域連携によるエコツアー商品の開発など住民主導の事業展開につながるものと考えます。

よって、引き続き上記のアならびにイについて目標を設定し、地域での新たな活動やきっかけづくりや団体間の連携による活動や交流の促進、住民参加による情報発信等を通じてミュージアムづくりへの

浸透と参画機運の醸成を図っていきます。

## 里山や河川、内湖など、恵まれた水環境を軸とした自然環境の保全

### 2 かぐや姫の川づくり事業〈管理調整課〉

(概要)

「安曇川の美しい竹林景観を蘇らせよう！」を合い言葉に地元の有志を中心に設立された「安曇川竹遊会」が実施する川づくり事業の取組が進められています。

(目標)

ア 竹林の伐開整備作業と関連イベントの開催

イ 学習会の開催

(結果)

ア 約200名の参加者があり、竹林約2000m<sup>2</sup>の内1500m<sup>2</sup>を伐開整備し、関連イベントも盛況裏に終了しました。

イ 竹の生態について講師を招き、約30名の住民が聴講しました。

(結果の評価)

ア 伐開作業の体験を通じて河川環境の改善や保全の大切さを参加者の問題意識として共有が図れ、今後の竹材としての利用価値の見直しにも一石を投じ、また地域の振興にも役だったと思われる。

イ 竹そのものの性状が分かりやすく説明され、竹の本質の理解につながり、今後の会の活動の参考になったと思われます。

(今後の展開)

今後はこれまでの竹遊会の事業を踏まえ、活動に対するより一層の支援を行って行くこととします。

### 3 流域アジェンダ実践促進事業

〈環境森林整備課〉

(概要)

湖西地域の豊かな水環境を保全し、琵琶湖の総合保全を推進するため、旧5町の5つの流域(環境保全)協議会で環境調査、自然観察会、河川美化活動などの取組が実施されており、平成17(2005年)年1月には町村合併による高島市の発足に伴い、これら5つの協議会で構成する「高島地域流域協議会」が同年3月に設立されました。この高島地域流域協

議会をネットワークの核にして5つの流域（環境保全）協議会で住民、事業者、行政などの協働による各流域の特性に根ざした環境保全の取組が進められています。

（目標）

湖西地域の5つの流域における身近な水環境や自然環境について、地域に根ざした取組を実践していただき、琵琶湖の水環境の保全につなげることを目標にしています。

（結果）

5つの流域（環境保全）協議会で水環境および自然環境の保全・修復に向けた環境調査や河川美化活動などが実施され、高島地域流域協議会でこれらの取組についての意見交換会や現地研修会などを開催するとともに、ホームページを開設して調査結果等を広く情報発信するなどの取組を実施しました。

（結果の評価）

各流域の水環境・自然環境の価値が再認識されるとともに、生き物調査結果等を基にホタルの復活に向けた具体的な取組が検討されるなど、さらなる改善への取組が進められつつあります。

一方で、具体的な取組を実践し着実な環境改善を図るためには、各流域協議会の幅広い連携が必要であることから、ネットワーク組織である高島地域流域協議会において、さらなる情報交換や連携の促進を図る必要があります。

（今後の展開）

これまでの取組を基に、具体的な環境保全・修復への取組を進めるとともに、高島地域流域協議会の活動をさらに活発化することなどにより、各流域協議会の連携を促進しながら流域の特性に応じた地道な取組を進めます。